



小さい頃から動物園の飼育員にあこがれ、動物を扱う高校で学ぶために入学しました。飼育員になるためには畜産科の実習だけでは学びきれないと思い、動物を扱う部活のなかでも大動物である牛のほうが、命を扱う大変さが理解できるだろうと、一番忙しい酪農部を覚悟のうえで選択しました。牛が幸せに過ごせるように、それを活動を通じて学びたいです。

(3年生・部長、関 菜々子さん)



動物好きだったことが入学のきっかけです。そして、さまざまな部活から一番動物との距離が近く、実際の酪農場に近い管理を生徒中心で行なえる酪農部に入部しました。将来は牛が自由に過ごせるような牧場に就職したいです。そのために、酪農系の学校に進学して酪農をより深く学び、さまざまな資格も取得して、必要とされる人材になりたいです。

(3年生・副部長、三村 彩さん)



さまざまな高校を調べていくなかで、動物と触れ合いながら実習できると聞き、惹かれました。部活のオリエンテーションで各部を見回って、一番やりたいのが酪農部でした。個人的にですが、牧場見学をしたことがあって、大変そうではありますが、自分の牛を持つことに興味があります。ですから将来は酪農場で働きたいです。

(3年生、伊澤 幸花さん)



概要

神奈川県立中央農業高等学校 酪農部

部員29名

フリーストール、搾乳ロボット1機(総頭数22頭、搾乳牛4頭)

活動内容：ホルスタイン種やジャージー種・ブラウンスイス種・黒毛和種・無角和種・褐色和種など多様な牛を管理する酪農部。日々の管理から共進会に向けた調教・調整、和牛甲子園に向けた肥育などさまざまな取り組みを実践している。

担当教諭：小笠原 直樹先生



動物好きだったこともありますが、普通科進学に違和感がありました。そのとき、母に中農を紹介されて、ここだ！と直感しました。酪農部の印象は「こんな部活もあるんだ」というものでしたが、牛が可愛すぎて(笑)。また祖母の家の近くに牧場があり、遊びに行った経験もあって酪農部に入部しました。今後は、共進会でリードを担当したいです。将来は、酪農関係で働きたいです。

(2年生、佐藤 菜々美さん)



酪農に憧れや興味を抱き、実践をとおして酪農を学ぶ学生達は今、何に興味を持ち、どのような活躍をしているのか？
未来の酪農業界を担う期待の星を紹介！

NO.6

神奈川県立中央農業高等学校



部員には将来、酪農に携わる仕事に就きたいと夢見る子も多くいます。そのうえで、牛という動物の扱いを通じて、外部の人達との関わりも大切にもらい、社会性などを学んでほしいです。技術はあとから付いてきます！

(小笠原先生)



小学6年生のときに酪農体験で初めて牛と触れ合っ、牛って良いなと思いました。また人気漫画を読んだ影響もありました。中学校は締め付けが厳しく、普通科に行くのも面白くない(笑)。会社務めより憧れの酪農を、と入学しました。将来は酪農家になりたいです。そのために、卒業後は酪農系の大学に進学したいです。そして、ヘルパーなどで経験を積んでから就農したいです。

(2年生、阿部 太郎さん)



小さい頃からの夢は牧場主になることです。そのため、動物の勉強をするなら高校から勉強したほうが良いと思って入学しました。その夢の実現に向けて酪農部にも入部しました。ずっと夢は変わりません。卒業後は畜産系の大学に進んで学び、さまざまな経験を積んで、すぐには実現できないでしょうが、乳牛や肉牛、馬などを飼えるように頑張ります。

(2年生、土佐 道香さん)

学生牛部は今!